

特別寄稿

やっと静かになった我が家

マリリン・ボイヤー

翻訳：ピレイ 順子

私と夫リックは「我が心静かなり」という聖歌を歌う時、よく冗談を言い合ったものです。「えっ？何が静かだって？」

静けさというものは、我が家ではめったに体験できるものではありませんでした。騒音があまりにも耐えきれなくなって、「クワイエット・タイム」（静寂時間）を発令することもありました。どうということかということ、その発令が出ると、ある一定の時間、子どもたち全員が静かに座って、読書や静かなゲームをしなければならないということです。それは、お母さんが考えをまとめる時間を確保するためでした。いつも混沌としていたわけではありませんが、同じ屋根の下に総勢16人も一緒に生活していたら、静かなわけがありませんよね。忙しく、活動的で、いつも何かが起こっているのです。

でも今は、状況が変わりました。現在我が家にいる子どもは二人だけです。その二人とも仕事を持っていて、自分たちのやるべきことがない日は少なく、我が家は今とっても静かです。最近、友人が我が家に寄ってくれることが何度かあり、こんなコメントをくれました。「わー、あなたの家がこんなに静かだなんて、何だか変ね。」本当に変な感じなんです。自分でもこの状態が好きかどうか分かりません。時にはそれなりの利点（例えば執筆中は集中しやすい）はありますが、やはり、成長期の子どもたちと一緒に過ごした時間が大好きでした。私は成長して大人になった子どもたち全員を誇りに思っています。でも、幼い子どもたちのママであった時期がとても懐かしいのです。私たちの親しい友人のダグ・オールドハムがよく歌っていた歌を思い出します。「私たちにはこの素晴らしい瞬間がある」というタイトルで、歌詞は以下の通りです。

私たちの手の中にある
この素晴らしい瞬間
それに触れようとすると
砂のように指の間からこぼれ落ちる
昨日は去って 明日は来ないかもしれない
でも私たちには今日のこの素晴らしい瞬間がある

私は今この変化の通過中であって、後にこのことについてもっと書くことになると思いますが、私が今日これを書いている目的は、混沌のただ中にいて（あなたがトイレにいても、幼い子どもたちがドアをドンドン叩いてあなたの居場所を確認するほど）、自分のための時間なんてちっともないと感じているお母さんたちを励まし、人生はあっという間に過ぎ去ってしまうことを伝えることなのです。その4歳の息子はすぐに16歳になり、運転免許を取得し、生活は一変します。人生は変化に満ちています。でも、子どもたちはあっという間に大きくなります。ほんの5年で大きな違いが出てきます。ですから、あなたの子供がまだ幼い今の時期を楽しんでください！他のことは後になってもできるでしょう。あなたの家が、すべてのことにおいて世話が必要に思える幼い子どもたちであふれかえっている時代には、決して戻ることはいけません。今のこの時を抱きしめてください！

幼い子どもたちと人生の喜びを体験してください。一緒に寄り添う時間を大切に、いつも読んで聞かせ、あなたの手を休めて、子どもたちの顔を見つめ、彼らがワクワクやっていることを一緒に楽しんでください。早く明日になってほしいと願うのではなく、今日の出来事を思い出にします。

以下は先ほど書いた歌詞の続きです。これはビル&グロリア・ゲイザーの歌です。この歌詞を読

んで考えてみてください。

生活から生まれる音楽の音を握りしめる
遊んでいる子どもたちの
笑い声から生まれる幸せな歌を
甘い香りの牧草地を駆けぬげるとき
私の手を握る
今日の出来事を思い出にしよう
私たちの手の中にあるこの素晴らしい瞬間
それに触れようとする
砂のように指の間からこぼれ落ちる
昨日は去って 明日は来ないかもしれない
でも私たちには今日のこの素晴らしい瞬間がある
聞こえてくるか細い声は 私の幼い娘が呼ぶ声

彼女が何を言おうとしているのか
パパに聞いてもらうために
丘の斜面に沿って走っている幼い我が息子
今日のような日はもうないかもしれない
優しい言葉 そっと触れる手
そして一杯のおいしいコーヒー
私を愛してくれて
そばにいてほしいと思ってくれる誰かがいる
今彼らがそばにいるときに 近くに引き寄せよう
明日まで待ってはいけないのだ
今日のこの日を後悔しないために
青い空と緑の森林 金茶色の新鮮な干し草
春の淡い思い出 秋のサーカス
そして素敵なこの日にあなたがいる

マリリン・ボイヤー抄録

基調講演①「我が家のホームスクーリング物語」

ボイヤー家について知っておられる方もいるかもしれませんが。夫リックがコンベンションで語るのを聞いたことがあるかもしれませんが、「14人の子どもたち全員をホームスクーリングで育てているあの家族」として知っておられるかもしれません。しかし、我が家がホームスクーリングを始めた背後の物語について知る人はほとんどいないと思います。結果的にはホームスクーリングを始めたおかげで皆さんと出会う機会が与えられたのですが。

最近のアメリカでは、ホームスクーリングを選択することは珍しいことではありません。多くの方が喜んでしています。しかし、1980年代初期にそれを選択するという事は、確かに珍しいことでした。では、なぜ私たちはホームスクーリングをしたのでしょうか？ いったい何が、37年に及ぶこのクレイジーなホームスクーリングの旅を始めさせたのでしょうか？ なぜ、子育て本を書いたり、子どもたちのための人格形成のカリキュラムを作ったりしたのでしょうか？ それでは、物語を始めましょう。

基調講演②「子どもたちと楽しむー子どもたちの心を保ち続けるカギ」

私たちは時々、述語名詞とか、割り算のやり方を教えるといった勉学のことを重視したいという衝動にかられることがあります。そして、ただ子どもたちと一緒にいる時間を楽しむということをお忘れてしまいます。この基調講演では、これこそが実は子どもたちの心に残る価値観を教え込み、神に関する事柄を心に築き上げていくカギであることに、マリリン自身がどのように気付いたかを分かち合います。どのように、子どもたちの心に届き、その心を掴むことができるか、また、どうやって次世代に続く満ち足りた家族関係を築き上げることができるのかを分かち合います。

分科会（東京・大阪それぞれ下記より6つを予定）

●「我が家の子どもたちは画一化教育が嫌い：情熱指向学習で子どもたちを自由にする」

聖書は、子ども（若者）を「その（子どもの）」行く道にふさわしく教育せよと命じており、子どもたち（若者たち）の行く道にふさわしくとは言っていません。子どもたちは一人ひとりが神によって違って造られた者であり、それぞれの使命があり、そのための違った才能や興味や、さらに弱

さもが、魅力的に混合した存在なのです。その子どもたちの人生の召しを成就する助け手として、私たち親は、一人ひとりを訓練するためにふさわしい、オーダーメイドのプランを作り上げていく必要があります。この分科会で、あなたの子どもの特徴、ほかの子どもたちと違う点を取り扱う方法を学んでください。子どもが情熱を注げることを追求させ、神がその子どもを造られた通りの人になれるように、「束縛となる期待」から彼らを解放してあげてください。

●「子どもが与えられた？」

では人格教育を始めよう！」

教育の最も大切な分野は、価値ある人格教育です。そうでなければ、私たちは単により能力を向上させるだけの訓練をしていることになります。私たちは時折、めそめそしたり、言い争ったり、逆らったり、悪口を言うといった厄介な特質が、態度の問題というよりはむしろ、人格欠如の問題であるということに気づかずにいます。(良い)人格は成功した人生への扉を開くカギです。賢明な人々が、雇用者、伴侶、友人の全体像を評価する時に最初に観察するのがその人の人格である場合が多いでしょう。ですから、人格教育が、子どもたちに与える最も大切な科目だと言えます。14人の子どもたちをホームスクーリングした母親であるマリリン・ボイヤーが、この最も大切な科目をどのように意識し、教えてきたかを分かち合います。

●「未就学児もホームスクーリングするのか？」

未就学児をいったいどう扱ったらいいのでしょうか？マリリンが最も教えた年齢層は、活発で、好奇心旺盛で、興奮した、挑戦的なかわいい子どもたち、いわゆる未就学児です。マリリン曰く、この時期こそが、彼らを厄介者扱いするのではなく、私たちの愛を注ぎ、彼らのすべてを受け入れることによって偉大な基礎作りをする時です。

未就学児だからと言って、年上の兄弟たちの勉強中に「忙しくさせられる」小さな邪魔者ではないのです。子どもの人生におけるこの時期は、彼らが生まれつき持っている学習意欲を最大限に用いることによって、その子どもの大きな可能性を

引き出す時であり、生涯にわたって大切な働きをするために、神がその子どもに与えた準備期間であり、それを助ける時でもあります。あなたの幼い子どもたちを、家族というチームの価値ある一員として訓練する方法をマリリンが分かち合います。

●「子どもたちのせいで頭がおかしくなりそう！ イライラを勝利に変える」

あなたの子どもたちが立て続けに間違った行動をとるのに、だからといって、心底反抗したようには見えない日というのを体験したことがありますか？子どもならではのイライラさせる行動と本当に反抗して逆らっている態度の違いを、どのように見極めたらいいのでしょうか？苛立ちを問題解決に変えるための、健全で実践的、また実証された手法を紹介します。

●「全てやりきるために」

子育て全般に疲れ果て、圧倒されてしまったことはありませんか？親にとって、人生とは確かに挑戦ですし、ホームスクーリングの責任をそれに付け加えた親御さんにとっては特にそうでしょう。しかし、人生をよりやさしく、生産的にする方法があるのです。この分科会では、その方法について話します。14人の子どもたちの母親であり、ホームスクーリング経験者としても37年に及ぶベテランのマリリン・ボイヤーが、子どもたちに優れた教育を施しながら、同時に山のような家事をこなすテクニックを伝授します。

●「自己中心という巨人を倒す」

イエスは、私たちの中で最も偉大な者は、仕える心を持った人であると教えられました。私たちの子どもたちは「自分中心」の文化の中で育っており、その中で、教育、娯楽、広告、ピア・プレッシャー（同世代と同じ規範・行動を求める、同世代からの圧力）らのすべてが混ざって、自己中心の生活を助長しています。家庭における賢い訓練によって、よりよい道を選択するように子どもたちに教えることができます。他人を優先することによって、自己中心的な生活を越えた、より優れた生き方を子どもたちにさせるための「仕え

るライフスタイル」を家族のために設計する方法を分かち合います。

●「なぜ高校までホームスクーリングしたことを嬉しく思うのか」

マリリン・ボイヤーは10代の子どもを育てる喜びと大変さを、たくさん体験しました。13人の息子娘たちが、高校過程までのホームスクーリングを終えた今、幼稚園から高校過程までのすべてをなぜホームスクーリングしたのか、なぜ、他の方法を考えなかったのか、ティーンの指導に、どういった点が大切か、体験と学習を通して、教えられたことを分かち合います。

●「心から従うこと」

いつも喜んで従う子どもほど親の心を喜ばせるものはありません。しかし、多くの母親も父親も、子どもの心を根本的に変えないまま、表面的な行動や態度を変えようとする、的外れなことをします。愛情深い親の仕事は、外側に出ている子どもの態度を単にコントロールすることではなく、子どもの心（精神）に働きかけて、神様を模範とする人格を築き上げることである理由と、実践的な方法を分かち合います。

リック・ボイヤー抄録

基調講演「あなたの子どもは神のチャンピオン：ヨシヤ王の人生から学ぶ」

イスラエル王国とユダ王国の歴史を通して、神はご自分の民を治める偉大な王を幾人が起こされました。しかし、その中でも最も敬虔な王になったのは、柔らかい心の8歳で王位についた王でした。列王記第二23章25節に書いてあります。「ヨシヤのように心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして主に立ち返った王は、彼の先にはいなかった。彼の後にも彼のような者は、ひとりも起こらなかった。」ヨシヤ王の人生は、次世代の「神の人格を持つ指導者たち」を教育するためのダイナミックな原則を、親たちに提示してくれています。

分科会

●「父親は何をするのか？」

ホームスクーリングをする家族の父親の役割については多くの誤解があります。「スクール時間」に家にいなければ、ホームスクーリングに関わっているとはいえないと思っている人もいれば、母親がもっと子どもたちと時間を過ごせるように、家事を分担することが父親としての役割だと思っている人もいます。しかし、聖書は、神の人格を目指す家庭において父親には7つの働きがあるとし、それぞれの働きは、ホームスクーリングにおいて非常に実践的、かつ力強く適用できます。「父親は何をするのか？」という質問に対する回答を、リックが知恵とユーモアで提供します。

●「ごちゃごちゃ、ガチャガチャ、そして重要なこと」

ホームスクーラーは、パニックになる必要はありません。歴史の中の賢者がいくつかのアドバイスを提供しています。あなたの優先順位を正す助けとなる、力強く実践的な解決方法を聞きに来てください。あなたのような親のために、神は箴言を書かれたのです。

●「男の子は男になる」

学校で「学習障害がある」というレッテルを張られる80%の児童は男の子です。ですから、賢い親は、男の子が健全に育つためには、学校に閉じ込めることや、学校の退屈さや統制は避けるべきことであると理解しています。神が男の子の中に組み込まれた活気を理解し、それに協力するためのカギは、少年時代というものが、将来、家族を守る者、一家の大黒柱、リーダーとしての役割をするための準備期間であること、それは自然なこととして、また聖書的なこととして男性の肩にかかることだということに認識することにあります。